

## 忘れてはならないこと

校長 鈴木 隆志

3月11日、東日本大震災から2年が経ちます。今もなお、2698名の行方不明者がいます。31万6千人を超える避難・転居者が仮設住宅等で暮らしています。当初は、仮設住宅には2年間という期限が付けられていましたが、1年間の延長が決まり、さらに1年間の延長が見込まれています。それでも、あと2年後には仮設を出られるという見通しが立たないほど、被災地の復興は進んでいません。「まだまだ、何も解決していない。」これは、先月聞いた気仙沼市の方の言葉です。

私たちの意識の中で、大震災の記憶が風化してしまうことを危惧しています。直接的な手助けはできないとしても、今もなお苦しんでいる被災地の方々に思いを寄せ、被災地と繋がってほしい、私はそう思います。「皆さんは、私たちの心の中を覗こうとするけれど、…応援してくれることが嬉しいんです。」これは、ドキュメンタリー映画の中で被災者の一人が語った言葉です。

先月5年生に配布された東京都教育委員会作成の防災教育補助資料『3・11を忘れない』は、まず自分の命を守り、次に身近な人を助け、さらに地域に貢献できる人になるために、という思いが込められています。学校では、各学年とも、意図的・計画的に防災授業に取り組んでいきます。御家庭でも、『忘れてはならないこと』として、話題にさせていただきたいと願っています。「あの日を境に、価値観、人生観、すべてが変わってしまった。」これは被災者だけではありません。

池袋駅東口に、宮城県のアンテナショップがあります。その2階に、大震災を伝えるコーナーがありました。写真資料等を見ていると、大震災がつい昨日のここのように思えてきます。

昨年度、学校でも廊下に掲示をして紹介した『復興の狼煙』ポスタープロジェクトは、今もなお被災者たちの頑張る姿を『第二章』のポスターとして発信し続けています。

震災関連の映画も数多くあります。岩井俊二監督の『friends after 3.11』、森達也監督の『311』、堤幸彦監督の『Kesenuma,Voices.』、リドリー・スコット製作総指揮の『ジャパン・イン・ア・デイ』、…。私は、見逃さないようにと意識して、映画館に足を運んでいます。

そして、復興支援ソング・復興応援歌の数々です。学校でも紹介をした『上を向いて歩こう』、『花は咲く』、『しあわせ運べるように』、合唱団が歌った『あなたはどこに』の他にも、80曲を超える復興支援ソング・復興応援歌がありました。被災地出身の歌手もいれば、そうでない歌手もいます。有名な歌手もいれば、ロックバンドやインディーズ系の名も知らぬ歌手もいます。誰もが歌手のメッセージとして深く強い思いを歌詞に込め、楽曲を制作し、発信し続けているのです。「一人でも多くの人の心が明日に向かうよう、歌い続けていきたい。」これは、被災地出身・在住の歌手の言葉です。

東日本大震災を「忘れてはならないこと」として、私は折に触れ光っ子たちに話をしています。未来を生きる光っ子たちに命の尊さを語り継ぎ、命を大切にすることを生きていく上での羅針盤としてほしいと願っているからです。

3月、光っ子たちは、それぞれの学年のまとめに入ります。卒業する6年生にとっては、濃密な一ヶ月、充実の毎日となることと思います。在校生たちにとっても、一年間の大きな成長を糧に、それぞれに、自信をもって進級をしてほしいと願っています。この3月を、光っ子たち一人一人が有意義に過ごしていけるよう、学校もラストスパートで頑張っています。御家庭でも、今まで同様に御支援、御協力をよろしくお願いいたします。